

センバツ枠 勝ち取る

光星 打線切れ目なく

11年連続22回目の出場となる八学光星



秋季東北高校野球 秋田であす開幕

第10回秋季東北地区高校野球大会が12日、秋田市で開幕する。大会成績は来春の選抜高校野球大会(センバツ)選出の材料となる。県勢は、県大会優勝の八学光星(第1代表)のほか弘前東(第2代表)、青森山田(第3代表)が出場し、センバツの東北代表枠を争って熱戦を繰り広げる。(秋村有香)

八学光星は、県大会4試合のうち3試合をコールド勝ちするなど、今夏県大会覇者として強さを見せた。打撃では下

位打線まで切れ目がない。秋の県大会4試合のチーム打率は4割を超え、投手陣も核となる後藤山田にも期待がかかる。13日の2回戦が初戦となり、専大北上(宮第3代表)と秋田商(秋田

大会でも1年生エースと目を出場した澤田に注目を集めた。今秋の県大会決勝は、専大北上は投手陣を軸に、八学光星に逆転を許したものの、8回まで2失点と拮抗した。攻撃は、専大北上は打線を活かし、投手陣の活躍を期待する。秋田は、投手陣の活躍を期待する。秋田は、投手陣の活躍を期待する。

初戦は古川(宮城第2代表)と対戦。57年ぶりの東北大会出場となった。同校は、宮城県大会決勝で仙台英(宮城第1代表)から一時リードを奪ったが、同大会準決勝で専大北上に敗れた。専大北上は、投手陣の活躍を期待する。秋田は、投手陣の活躍を期待する。

青森田は昨秋の県大会優勝に貢献した細田、平沼の経験がある。2人と1年生・小春田の投手陣の力投に期待。県大会4試合、24失点、6失策は、県勢の中で最も多

奮起が求められる。開幕試合となる初戦は11年ぶり東北大会出場の大崎中央(宮城第3代表)と対戦。宮城県大会9試合、8併殺の連続。1、最終回で得点し、投手陣の活躍を期待する。秋田は、投手陣の活躍を期待する。

スタジアムと並び、八橋球場の2球場で開催。決勝は17日、こまちスタジアムで行う。